



Marigaux
PARIS

901C

豊かな音色と表現力そのままに
新素材による安心と安定性を

Marigaux Oboe

901C

希望小売価格 ¥1,730,000 (税抜)

セミオートマチック

付属キー : 第3オクターブキー、左Fキー、
フォークFレゾナンスキー、LowB^bレゾナンスキー、
LowHレゾナンスキー

トリルキー : LowH-C[#]、LowC-C[#]、C[#]-D[#]、
D[#]-E、G[#]-A、A^b-B^b、H-C[#]、C-D

管体素材 : 上管/コンボジット、下管及びベル管/グラナディア
キー材質 : 銀メッキ

NONAKA

※表示価格は2024年2月21日現在のもので、税抜表示となっております。

NHK交響楽団オーボエ奏者

マリゴ オーボエ

坪池 泉美 × 901C

目立ちたいとき、溶け込みたいとき、 それぞれ無理なく吹き分けられる楽器

上管ボディにコンポジット材を使用したマリゴオーボエ901Cが、プロやハイアマチュア奏者の注目を集めています。昨年秋にご購入されたNHK交響楽団オーボエ奏者の坪池泉美さんにお話をうかがいました。



坪池 泉美
(NHK交響楽団オーボエ奏者)

◆901から901C

私が初めてマリゴを手にしたのはちょうどドイツ留学中だった10年前。多くのオーボエ吹きにとってマリゴは特別の存在ですが、私にとっても、いつかは吹いてみたいあの楽器でした。そのとき購入したのは901です。その901でN響のオーディションも受けたのですが、そのあとのトライアル期間中ずっと「音が小さい」と言われ続けていて、それが悩みでした。買ってから既に7年くらい経っていたので、新しい901にも買い替えましたが、やはりまだ少し足りないと感じていたところでした。そして今回購入したのが901Cです。上管がコンポジット製ボディの901Cの噂は、留学時代のドイツの友人からも聞いていましたが、実際に試したのは昨年夏のIDRS(国際ダブルリードフェスティバル2015東京)が初めてでした。その時は演奏やボランティアの仕事であつたので、ゆっくりと試すことはできませんでしたが、悪くはない印象でした。そして数ヶ月後、今回はお店でじっくり、普通の901とコンポジットの901Cを吹き比べてみました。

「断然コンポジットの方が良い！」マリゴの音色はそのままに、輪郭がよりくっきり見える音です。クリアに響いて音の通りも良く、それでいて、たとえば2ndオーボエのときには1stオーボエにきちんと寄り添うことができます。目立ちたいとき、溶け込みたいとき、それぞれ無理なく吹き分けられる楽器です。吹奏感も文句ありません。若干、木製よりも抵抗感があるように感じますが、そのおかげで、均一にムラなく鳴ってくれる。息に反応して楽器がいきいきと鳴ってくれます。オケのセクションの方たちからは試している時から、「全然違う」「絶対にこっち」と口々に言われましたし、ある時エキストラで参加したオケでは1stオーボエを吹く機会がありましたが、友人のホルン奏者から「音がよく聴こえるようになった」と言われました。見た目にはほとんどわからないので、私がコンポジットに替えたのをまだ知らない人も多いと思いますので、知ったら驚かれるかもしれませんね。

◆コンポジットだからこそそのメリット

日本はまだまだコンポジットというだけで受け入れられにくい状況がありますが、海外ではドイツをはじめとする多くの国で次第に使用者が増えてきているそうです。合理的に考えるドイツ人たちにとっては、冬の寒い教会で吹く機会が多いことを考えると、ひび割れの心配がないというのは大きなメリットなんですね。それから狂いが少ないのも嬉しいですね。木製の楽器の場合、息を入れると湿気を吸ってボディ自体が膨らんだり縮んだりを繰り返して、長く使っているうちに変化していく。その変化が面白い場合もありますが、コンポジットの場合は、最初のベストの状態がずっとキープされますから、あれこれ心配せず演奏に専念することができます。ただし、コンポジット製だから頑丈だということではありませんから、決して乱暴には扱えません。ぶつけたり、落としたりすればキーだけではなく、ボディも破損する恐れがありますから注意は必要です。

使い始めて5カ月ほどになりますが、今の私にはコンポジットに対する否定的なイメージ、偏見は一切ありません。もし欠点をあげるとすれば、少し価格が高いことくらいでしょうか。しかしそれは、この管体がコンポジット製だからと言って型にはめてポンポンと出来るわけではなく、かえって木より硬く扱いが難しい素材を木同様に1本ずつ加工することを考えたら仕方ありませんね。それに、木製の場合に将来必要になる調整や修理の費用を想定すれば、決して高いとは思えません。

私は楽器を購入する際は、実際に吹いてみるのが大切だと思っています。今回も噂やカタログだけの知識だったら、このコンポジットを選ぶことはなかったと思いますが、実際に吹いてみてまったく迷いがなくなりました。そして今ではとても頼りになるパートナーを得ることができたと思っています。

坪池 泉美(つばいけ いずみ)

神奈川県出身。2004年東京芸術大学音楽学部卒業。2005年ドイツ・カールスルーエ音楽大学入学。2009年同校にてディプロム、マスター課程修了。2005年第22回日本管打楽器コンクール入賞、同年ドイツにてリハルト・ラウシュマンオーボエコンクール入選。2010年第79回日本音楽コンクールオーボエ部門入選これまでにオーボエを和久井仁、小畑善昭、松山敦子、オットー・ウィンター、トーマス・インデアミュラーの各氏に師事。2010年より日本フィルハーモニー交響楽団オーボエ奏者を務めたのち、2014年よりNHK交響楽団団員。洗足学園音楽大学非常勤講師。

Q&A - 「マリゴオーボエ901C」によく頂くご質問へお答えします-

Q. 901Cって何?

Q. 学生向けのモデルですか?

Q. なぜコンポジット製の方が高いの?

Q. 下管がひび割れることは?

Answer

オーボエに多いトラブルの管体のひび割れを未然に防ぐため、人気モデル901の上管ボディにコンポジット材を使用したモデルです。なお、下管とベル管には従来のグラナディアウッドを使用しています。もちろんマリゴの魅力である美しい音色や豊かな表現力に遜色はありません。

いいえ、901同様プロフェッショナルモデルです。もともとフランスより北に位置する寒さの厳しいドイツのプレイヤーたちからの要望により製作されましたが、今ではヨーロッパやアメリカなどの各地に広がっています。現在、日本でもNHK交響楽団オーボエ奏者の坪池泉美さんをはじめとする複数のプロ奏者に使用されています。

これは素材自体の価格差ではなく、素材の違いによる加工の難しさのためです。901Cは硬質なコンポジット材を使用しているため、その加工には熟練した高い技術とより正確で慎重な時間をかけた作業が必要になります。

日本国内では通常の使用でグラナディア製の下管やベル管にひび割れが発生することは極めて稀です。そのため901Cでは上管のみにひび割れ防止のためコンポジット材が使われています。ただし、コンポジット製の管体は冷えた状態ではキークッションに影響が出る場合があります。演奏前には木製品と同様に管体を温めてからご使用ください。また落下や転倒、ぶつけたりなどの強い衝撃を受けると、折れたり欠けたりなど管体が破損する可能性があります。お取扱いは十分にご注意ください。

仕様、付属品は予告なしに変更される場合があります。モデルによっては納期を必要とする場合があります。ご了承ください。

www.nonaka.com/marigaux/

公式アカウントで最新情報発信中!



NONAKA

総輸入元 野中貿易株式会社 総発売元 株式会社ノナカ

231-0011 横浜市中区太田町4-46